

令和5年度特定鳥獣保護管理検討会（第2回）

日時：令和6年2月28日（水）午後2時から

場所：愛知県自治研修所 601 教室

（1）愛知県特定鳥獣保護管理検討会（令和4年度第2回、令和5年度第1回）における意見と対応について

（座長）銃の規制強化について、動きがあるようだが、愛知県でも影響がありそうか。

（事務局）狩猟者の話を聞いている限り、規制強化されるハーフライフルを有害鳥獣捕獲で使用している例が少ないようで、あまり影響がないと考えている。

（2）令和5年度市町村実施計画（ニホンジカ、イノシシ及びニホンザル）（案）について

【ニホンジカについて】

（構成員）許可捕獲について、性別で区分けして把握しているか。

（事務局）統計上、区分けしている。

（構成員）捕獲データについて、どこまで昔のものまで保管されているか。

（事務局）確認させていただく。

（構成員）捕獲データは基礎資料として非常に重要なデータなので、しっかり引き継がれる資料として整理しておくべき。そのための体制についても考えていかないといけないと思う。

（構成員）生息数について、5年後に1万頭にするというのは県の目標としてそうしているのか。

（事務局）お見込みのとおり。

（構成員）生息域の拡大について説明があったが、林業被害の増加との関係性もあるのか。

（事務局）豊田加茂地域の被害について、以前は報告がなかったが、近年報告されている。

（構成員）林業被害について、伐採後の植林した樹木について被害を受けているのか。また、被害対策は実施されていたが被害を受けたものか、それとも、されておらず被害を受けたものか。

（森林保全課）豊田加茂地域の被害については、植林地での被害で、柵等の対策がされていたが、柵等が破損し、その個所から侵入されて被害を受けたと聞いている。

（構成員）捕獲の担い手が減少していることについて、以前から言われていることで、何か根本的な対策を考えているようであれば、教えていただきたい。例えば、自衛隊と連携し、自衛隊の訓練の中で、植林や鳥獣の捕獲等についても取り組むのも一つの手ではないか。

- (事務局) 今回の資料で示させていただいたとおり、限られた人員でいかに効率的に個体数を減らしていくかが一つの方法と考えており、メスジカの捕獲時期について、共有させていただいた。自衛隊の連携についても参考とさせていただきたい。
- (構成員) 林業被害の内訳として、幼齢林の被害が主体か。それとも壮齢林の剥皮被害が多いか。
- (森林保全課) 統計上把握しているが、手元に資料がないので、確認させていただく。
- (構成員) 幼齢林は柵等で対策がしやすいが、壮齢林の場合、加害獣がどこに来るか予想できないので、対策が困難。集計する際はこれらを区別しておくとうい。
- (構成員) 捕獲の担い手の確保について、全体の考え方について、効率的に個体数を減らしていくために、手法、場所、時期などについて考える必要はもちろんあるが、狩猟免許を所持しているが、やり方がわからず有害鳥獣捕獲や狩猟等の活動に参加できていない者を動かしていくことも考えていく必要があるのではないか。わなでの捕獲についても、わなの設置のほか、わなの見回り、捕獲した後の保定、止め刺し、捕獲個体の処分など、捕るだけでなく一連の作業があり、その整理も必要。生息数の目標も達成したとしても、その後捕獲圧を緩めてしまうと数年で元通りになってしまう。その時に捕獲の担い手が十分いる必要があるので、今後のことも考えて、捕獲の担い手確保も施策として考えていく必要がある。

【イノシシについて】

- (構成員) イノシシの成獣と幼獣の区別はどのようにしているか。
- (事務局) 一部体重で区別しているところもあるようだが、ほとんどのところが瓜模様の有無で区別されていると聞いている。
- (構成員) くくりわなと箱わなについて、どちらの手法による捕獲が多いか。
- (事務局) 有害鳥獣捕獲については、「わな」という区分で集計しているので、わなの種類で区分できていない。
- (構成員) 成獣、幼獣の区別する基準について課題がある。1歳未満か、1歳以上かで区別できるとよいが、秋ごろになると体重や形態での区別は難しい。正確に区別するのであれば、歯の萌芽状況で区別する手法があるが、これは現場で実施するのは困難。現行の区別方法について正確性があまり高くないことは理解しておく必要がある。
- (構成員) メス捕獲を進めることに意味はあると思う。ただし、市町村から挙がってくる情報について、ちゃんと性別を判定できているか精度について課題があると思う。
性別を区別して支援をするのであれば、報告が正確にされているか二重でチェックをできるとよい。
- (構成員) わなで捕獲する際に、普段はどういった餌を使用して誘引しているの

か。メスを優先的に誘引できるような資材や餌はあるのか。

(事務局) イノシシの場合は、米ぬかが使用されていることが多い。イノシシのメスを誘引できる資材等については把握していない。

(構成員) 過去にオスのブタの唾液がイノシシのメスについて誘引効果があった旨の実験報告がある。

(事務局) 参考とさせていただきます。

(構成員) 成獣・幼獣を区別した捕獲助成金について、行政としてしっかり確認できるようにしておく必要があると思う。

(構成員) シカ、イノシシの両方に共通して言えることだが、計画では毎年度均等に捕獲目標を設定しているが、最初に捕獲圧を強め、一気に捕獲していくという組み立ての方がよい。生息密度が減少するにつれ、捕獲しにくくなることが見込まれるので、現在順調に捕獲ができていても、今後捕獲成果が上がりにくくなることも想定しておく必要がある。

(座長) 捕獲圧を強めるに当たり、先ほど話のあった捕獲の担い手の課題もある。

(構成員) 狩猟者だけでなく、農家も高齢化による担い手が減少している。現場の話の話を聞いていると、シカとイノシシについて、今までと生息域が変わっているように感じられる。従前は山を柵で囲っていれば被害を防げていたが、最近はそうはいかないため、圃場を囲う柵が増えているようだが、柵も管理も担い手の減少により課題。イノシシの農業被害について、特に被害が多い豊田加茂地域について、どのような品目が多くて、どのような対策がとられているか伺いたい。

(野生イノシシ対策室) 手元に資料がないので、詳細は確認しないとわからないが、県内の一般的な状況としては、水稻の被害が大きく、柵による防御対策もなされている。

【ニホンザルについて】

(構成員) 群れの動向を把握するため、新たに発信機の装着を予定されている市町村があるようだが、過去に群れの動向を把握し、直ぐに群れ捕獲をしてしまう例もある。発信機を装着し、その後の動向を追跡し適切な措置がとれる体制にすることが重要であるので、今後導入される市町村に周知いただきたい。

(構成員) ニホンザルの防除対策について、ニホンザルは柵を登って超えてしまうので、それを踏まえた対策が必要だが、西日本では柵の支柱に通電する手法がとられている例もあると聞く。愛知県でも効果があると見込めるようであれば、参考としていただきたい。

(構成員) 現在のニホンザルの第二種特定鳥獣管理計画の策定に係るガイドラインについて、現状の個体群の維持を前提とし、加害レベルを下げる、対処療法が想定されている。群れの動向を把握できているのは岡崎市と豊川市で、県全体の群れの半数程度のみ。群れの動向を把握した後

に加害レベルが高いものについて、どのように低くしているか考えながら対策を実施していく必要があり、対策の効果を検証するためにも被害の状況等を把握しておく必要がある。また、現場でどこまでガイドラインに沿った対策を実施できるかも検証し、できない場合にどうするかも考えていく必要がある。現在、環境省の方で、ガイドラインの改定が進められているが、このガイドラインを市町村に確実に周知することが大切である。

(構 成 員) 現行、群れの動向の調査結果を見る限り、群れの分裂は発生していないよう。群れの分裂の有無についても、生息動向に係る重要な指標なので、把握できておくとよい。

(3) 指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ及びイノシシ）について

(構 成 員) ニホンジカの夜間銃猟について、実施時間が日没前後で短く、実施場所についても狭い範囲でやっているように感じるが成果はどうか。

(事 務 局) 事業としては、日中は誘引狙撃を実施し、そのまま夜間銃猟を実施している。捕獲頭数としては他の手法と比べ少ないが、捕獲努力量当たりの捕獲頭数(捕獲効率)としては高く、効率的な手法と考えている。